

平成26年度 第1回 鹿児島市清掃事業審議会 概要

1 開催日時

平成26年7月3日(木) 10:30~11:55

2 場 所

市役所本庁本館特別会議室

3 出席者

(1) 委員(14名)

赤崎委員(副会長)、赤星委員、有馬委員、井上委員(会長)、岩元委員、内委員、榎本委員、大前委員、鬼塚委員、瀬戸山委員、藤安委員、三原委員、向段委員、吉見委員

(2) 事務局(10名)

環境局長、清掃部長、リサイクル推進課長、廃棄物指導課長、清掃事務所長、北部清掃工場長、リサイクル推進課庶務係長、同課ごみ減量係長、南部清掃工場管理係長、同課施設整備係長

4 次 第

(1) 委嘱式

(2) 報告事項

- ①平成25年度本市のごみ・資源物の排出量等について
- ②平成26年度一般廃棄物処理実施計画について
- ③平成26年度清掃部事業概要について

(2) 審議事項

- ①今後のごみ減量施策の検討について
- ②今後のスケジュールについて

5 報告事項及び審議事項の概要

(1) 報告事項

① 平成25年度本市のごみ・資源物の排出量等について

発言者	発言要旨
委員	23年度と24年度のもやせるごみ大幅に増えているが、どのような要因か。
事務局	正確な分析は難しいが、新幹線の全線開業があったことによる観光客の流入や景気の回復等で消費量が増え、ごみの量が増えたのではと思う。
委員	経済活動が活発になって、鹿児島市として良いことだが、その一方で廃棄物が増えている問題がある。経済の発展の廃棄物の縮小をどのように両立するかが重要な課題である。

委 員	24年度と25年度の粗大ごみの減り方は、恐らく、有料化によるものかと思う。
事務局	粗大ごみの有料化が与えた影響は大きかったと認識している。

②平成26年度一般廃棄物処理実施計画について

③平成26年度清掃部事業概要について

(一括説明及び一括協議)

発 言 者	発 言 要 旨
委 員	小型家電リサイクル事業について、収集は市町村の役割だったかと思うが、ボリュームの問題があり、市町村の現状としては、うまくいっていないと聞いている。秋田では県と協力し、うまくいっている事例があるようだが、県の協力の可能性はないのか。
事務局	県と市町村が連携して取り組んでいるところもあり、市町村が独自で行っているところもある。県との連携は当面様子を見て、まずは市独自で始めたいと思っている。
委 員	生ごみの減量化・資源化推進事業の26年度の予算が減っているが、私自身がその事業で実施しているダンボールコンポストでの生ごみのたい肥化を知らず、このような良い事業は予算を減らさず続けて欲しいと思う。
事務局	生ごみの減量化・資源化推進事業の26年度の予算額が前年度と比較して減ったのは、電気式の生ごみ処理機の補助申請の実績が減少したことによるものである。 この事業が開始してから一定期間が経過し、補助金制度を利用する意識の高い方は、既に補助金の申請をしていることが、補助金申請の減少の一因かと思う。本事業については、今後も市として継続して取り組んでいきたいと考えており、講座を開催することで、更にダンボールコンポスターの良さを広げていきたいと考えているところである。
委 員	廃棄物監視指導員設置事業について、市の対応として、どのような対応をしているのか。
事務局	年間365日のうち年末年始を除く毎日について、廃棄物監視指導員が山間で人目が見つからない約35か所の重点監視区域を巡回監視している。また、不法投棄以外として野外の焼却の対応があるが、苦情等があったら監視指導員が指導を行っている。
委 員	ごみの分別が始まった時に、市から市民への廃棄物排出のルールの情報提供がうまくいったと思うが、年数が経過するとそのルールが停滞するので、改めて市民に広報する時期にきているのかと思う。

委 員	バイオガス施設整備事業について、発生したガスはどのように使われるのか。
事務局	生ごみ等からメタンガスが発生し、ガスを利用して発電する方法やそのままガスとして供給する方法があるが、今後、利用方法は検討する。今現在のところは、決定事項ではないが、ガスをガス供給者へ提供して、そのガスを市民が使うことで意識が高まるのではないかと考えている。
委 員	廃棄物から資源が生まれ、大変有意義な事業かと思うので、力をいれて頂きたい。

(2) 審議事項

①今後のごみ減量施策の検討について

②今後のスケジュールについて

(一括説明及び一括協議)

発 言 者	発 言 要 旨
委 員	ごみの減量化を進めるなかで、ごみの有料化があるようだが、市は有料化をどのように考えているのか。
事務局	ごみ袋を有料化することである。中核市の中で2割程度が実施しており、九州県都では、大分市が今年の11月から実施する予定であり、鹿児島市と長崎市の2市が実施しておらず、県内でも15市中10市が実施している。ごみの有料化は、全国的にもスタンダードな流れになってきており、ごみの減量の有効な施策である。有料化することで、ごみの分別意識の向上や資源ごみの有効活用につながり、ごみ減量の施策の一つとして審議していただきたいと思っており、市として、このまま有料化に進むということではない。仮に、有料化となった際に、どのようにしたら市民サービスの向上なるのかを含めて、審議していただきたいと思っている。
委 員	ごみ減量として、ごみの有料化があるが、ごみ袋を有料化している所は多く、ごみ袋の有料化は検討して頂きたい。
委 員	ごみの有料化とバイオガス施設の整備について、両方ともごみを減らす為の手法だが、本質が異なると思う。バイオガス施設の整備は、出されたごみを市がどのようにリサイクルするのかということになる。次に、ごみの有料化は、ごみを出す側の行為に直接関係し、自分がごみを多く出したら、負担が多くなってしまい、ごみ減量の優良的な手法かと思う。一方で、どのようにしたらごみを減らすことが出来るのかを市民に情報提供する必要があるかと思う。
委 員	ごみの有料化は以前から検討してきたが、本市では足踏みの状態であり、他の都市では有料化が進んでいる。内部の検討だけではなく、専門家の参加を頂きながら、検

	<p>討を加速させていく必要があるかと思う。</p>
委 員	<p>ごみの有料化による収入を市民サービスの向上に充てるので、納得して下さいでは、市民感情としては負担感がある。そのあたりは工夫をすべきかと思う。</p>
事務局	<p>今の委員の意見が、多くの市民の方の考えかと思う。指定袋の値段が変わらないと、今の状況がそのまま続いてしまうことになる。指定袋にすることで、袋の値段があがった分は市の収入となり、その収入をどのように使うのかが重要になる。</p>
委 員	<p>出したごみ袋に名前を書かせる市町村があるが、ごみ減量の対策として、ごみの有料化とどのような違いがあるか。</p>
事務局	<p>ごみ袋に名前を書かせるのは、ごみを出した人に責任を持たせる為のものである。ごみを有料化した際の負担は、市民の皆さんへ還って来る仕組みを作る必要があるかと思う。</p>
委 員	<p>他都市でのごみの有料化は、市民が受け入れている実績がある。他都市の事例を基に、ごみ有料化にむけての経緯や問題点を検証し、この審議会の皆さんで議論する必要がある。また、専門家の意見を聞く必要があろうかと思う。</p>
事務局	<p>同じ有料化といっても、都市によって色々な方法があるかと思うので、他都市のシステムや考え方を整理し、次回の審議会では、情報提供をさせて頂く。鹿児島市として、これまで、調査や研究の域から抜け出せなかったが、真剣に検討するという問題意識に至ったので、今後はきちっと説明させて頂きたいと思っている。</p>
委 員	<p>ごみの有料化の共通の認識がないと今後の審議会で議論ができないかと思うので、解説する。法律上は市民が出したごみを市町村が対応するようになっているが、市民が責任を持つことが原則である。従って、そこを認識して頂く為には、ある程度の経済的な負担を負わせ、その負担をしたくないなら行動を変える必要がある。ごみを減すことが目的であり、ごみの有料化は極めて大事な議論である。有料化によって市に収入が入り、市としては新たな施策ができる。これらは新しい手法ではなく、広く取り入れられた手法であると理解したほうがいい。</p>